



土づくり資材の試験中

土づくりは、農作物をつくる上で非常に大切な事です。今回は、完熟・こだわりの土づくり資材「こだわり健肥」です。その特徴は、

- 施肥効果を高くする。
- 土の透水性、保水性を向上させる。
- 肥やけをおこさない。
- 肥料成分を保持する力を増大させる。
- 根毛の発生を促進する。
- ガスや有害な成分を無害化する。

(根腐れをおこさない)

土壤診断に基づき物理性・化学性をこだわり健肥により改善した施用区と無施用区を造り、昨年の10月1日にキャベツ(品種・春光7号)を播種して栽培しています。1~2月の肥料持ちが良く、4月の状態では外葉が施用区の方が大きく効果を実感しています。5月には収穫して改めて報告する予定です。



平成23年度 日廻り市場グループ通常総会



4月15日熊野新宮老人集会所にて日廻り市場グループ通常総会が行われました。今回の総会は20回目となり大きな節目となりました。

過ぎてしまえば、早いもので始めた頃は、手作り小屋でしたが現在ははりっぱになりました。30名ぐらいおられた会員は13名になりました。減り続けていた会員は今年1名入り、皆さんの励みになりました。年1回の視察研修を行い、生産意欲の向上と楽しみづくりで頑張っておられます。平成22年度事業報告及び収支決算、平成23年度事業計画及び収支予算を決議されました。

講習会を開催いたしました!

- | | | |
|------------|--------------|----------------------|
| 4/1 スミレ会 | 4/4 瀬野女性部 | 4/5 小学校5年生へ食農教育教材本配布 |
| 4/6 中野生産者会 | 4/13 ススキグループ | 4/14 上中野研究会 |

漫菜食堂に出演RCCテレビ!



広島の地産地消情報を伝える「つじもと地産地消漫菜食堂」へ活菜倶楽部が取り上げられ「Aコープ瀬野店」の売り場や生産者の畑の様子が4月30日(土)RCCテレビで放送されました。Aコープ瀬野店では、活菜倶楽部の馬上会長より「野菜を作って元気になり地域を活性化する活菜倶楽部です。また、栽培履歴を開示して安心も届けていますと紹介して、ミディトマトを出荷しておられる宮原生産農家のハウスへ行き、真っ赤になったものだけを収穫するというこだわり栽培やハウスの中のタマネギを収穫しました。

活菜倶楽部の野菜は新鮮で生産者のこだわりがあり、安心できる農産物であることが伝えることができました。



水稻苗の出荷始まる

平成23年度の水稲苗の出荷が始まりました。平成23年度米の生産目標数量は、1,485,956kgで面積換算値は294.3haとなっています。育苗センターでの生産箱数が約19,000箱の予定で水田作付け面積に換算(10aに19箱)すると100haになります。

JA安芸育苗センターの水稲苗は、管内の水田作付面積の1/3をまかなっています。育苗センターで販売する苗は、種子消毒剤のテクリードCフロアブルとスミチオン乳剤を使用せずに手間をかけて温湯消毒を行い、食の安全と安心につながる取り組みをしています。

JA安芸の「こだわり米」生産に取り組む方は、ほとんど種子の温湯消毒を行い、農薬回数を減らしておられます。又、播種時のカビ防止の為に処理する農薬(ダコニール1000)は、育苗センター内に農薬適正処理機を設置して環境にも配慮しています。

安全にこだわったJA安芸の水稲苗を多くの農家の皆様にご利用していただくよう頑張っております。

春まき野菜苗出荷

育苗センターで12月より育苗してきた長ナス、ピーマン等11種類の苗を4月18~20日に約34,000鉢を各支店へ出荷いたしました。また、トルコギキョウ苗10,000本、長ナス4寸鉢苗も1,030鉢出荷いたしました。



5月営農メモ

水稲

◎本田の準備

代かきは田面を均平にし、苗立ちの良い硬さにするとともに除草剤の効果を高めることができます。このとき練り過ぎますとガス障害のため初期成育に悪影響を及ぼします。一般土壌では田植え 4~5 日前に代かきをすると土の固さが安定し良い状態になります。柔らかすぎると深植えになりやすく、固いと浅植や浮き苗の原因になります。

◎基肥 基肥は地力で足りないチッソ・リン酸・カリを補給し、必要茎数を確保するために施用します。稲作ごよみの施肥例を参考に、昨年の水田ごとの生育状況を考慮し、施肥設計します。昨年休耕した水田や野菜あとで作る水田では基肥を少なめか無しにします。基肥一発型の J B575M は、コシヒカリなどの早生品種に、J B555M は、ヒノヒカリなどの中生品種に使用でき、追肥・肥穂が不要で省力ができます。穏やかに効き、葉色は薄めに生育します。(天候によっては穂肥が必要な場合があります。)

◎田植え 大株植えや密植は過繁茂となり、収量・品質低下や倒伏の原因になるばかりか消えてゆくむだな茎も多くなり、思った程収量・品質は上がりません。1 株当たり 3~5 本とし、植付け間隔は条間 30 cm × 株間 16.5~18cm を目安にしてください。ただし、株の張りにくい田ではやや狭めに植付けてください。補植は 3 株以上欠株の場合のみとし、1~2 株程度の欠株は、その周囲の株張りが良くなるのでほとんど影響しません。

◎箱施用剤 圃場や品種の適したものを選び、なるべく当日の施用は避け登録の範囲内で早めに散布した方が効果が高まります。除草剤と間違えないように散布前にもう一度確認してください。

◎田植え後の水管理 苗が活着するまでは、水を溜めてかけ流しを避け、積極的に水温を上げます。今年は低温が予想されますので、早期の田植の場合の特に注意をしてください。活着後は、ときおり水を落として土中に空気を入れ、根を元気にします。夜間や日中でも曇って寒い日や風の強い日は、やや深水とします。

◎活着期~分けつ期 活着して葉色が出てきたら、3~4 日おきに水を落とし、田がわくのを防ぎます(間断かんがい)。ただし、漏水田で田干しのやりすぎは雑草が発生するので注意してください。

◎追肥 分けつを促進するとともに、穂肥まで下限葉色を維持します。コシヒカリ、ココノエモチは、田植え後 7 日、ヒノヒカリ、あきろまんは、田植え後 10~14 日頃中間追肥を施用します。

◎除草剤 散布方法や条件に適応した農薬を選び適期に使用し、除草効果を高めましょう。散布前には必ずラベルを確認し、しっかり水を溜め散布後 3~4 日は 3~5cm の水位を保つ様に静かに入水し、田面が露出しない様に水管理を徹底して下さい。そうする事でかなり効果が高まります。 ※散布後 7 日間は落水、かけ流しをしないで下さい。

果樹

ブドウのジベレリンとフルメットの使用について

ブドウでは、ジベレリンは 1 回目処理をすると無核化(種なし) 2 回目処理は果粒肥大効果があります。フルメットは着粒増加と果粒肥大で花ぶるいの防止や果粒の肥大に顕著な効果を示すが、巨峰やピオーネで高い濃度のフルメットをジベレリンに混用すると果粒数の著しい増加によって糖度の低下や着色の不良を生じるので、正確に使うようにします。

ジベレリンに対する反応性が強い順に①巨峰系四倍体品種(ピオーネ、安芸クィーン、藤稔等)②二倍体欧州系品種(マスカット、ネオマスカット等)③二倍体米国系品種(デラウェアマスカット・ベリー A 等)④ジベレリンを必要としない三倍体品種

ジベレリンを購入した時使用説明書が入っていますので使用方法を確認してください。

ピオーネなどの巨峰系四倍体品種では、ジベレリンが高濃度だと果梗が硬化し脱粒しやすくなるので満開時~満開 3 日後に 12.5~25ppm の低濃度で 1 回目処理を行い、満開 10~15 日後に 25ppm で 2 回目処理を行います。また、果梗の硬化を防ぐために花穂先端約 3cm の花だけを用いたり 2 回目処理はジベレリンの代わりにフルメットを用いたりすることもあります。ジベレリンとフルメットはともに有核(種あり)栽培ではすべて単用処理です。

満開時 1 回目処理

これは、従来の 1 回目処理と同じ時期に処理する方法で 2 回目処理は行いません。ジベレリン 25ppm にフルメット 10ppm を混用して処理します。ジベレリン単用では果皮の着色はよいものの果粒が小さく果肉が軟らかく脱粒しやすいなどの欠点がありましたが、フルメットの混用によりこれが改善され特に果実着色がよくなります。処理時期は、満開 3~5 日後(落花期)で処理が遅いと果粒肥大と着色が劣ります。

野菜

苗について 5 月に入ると先月定植した苗が生育し、株が大きくなってきます。連休明け頃にはトンネルなどの被覆資材を撤去し、支柱を立てて樹がぐらつかないようにしましょう。わき芽も大きくなってきますので不要な芽は早めに取り除きましょう。

追肥 定植後 20 日位になると肥料が切れ始めますので追肥を開始します。以降、葉色を見ながら 15~20 日おきに追肥します。施肥位置は追肥毎に場所を変えて施しましょう。追肥後晴天が続く様であれば灌水もしておきましょう。

摘果 果菜類の場合、樹の生長と同時に果実の肥大を行うため、樹が小さい時から実を着けると生育が悪く収量が減少しますので、生育を見て摘果を行いましょう。特にナスやピーマン、キュウリでは注意しましょう。トマトでは一果房に一段目では 3~4 玉、以降は 4~5 玉着果させ、多く着果した場合や、果実に傷などの障害があるものは早めに摘果しておきましょう。

病害虫 4 月下旬よりアブラムシやウリハムシなどの害虫が発生していますので、発生初期に防除を行いましょう。ナスでは今月下旬頃よりハダニが発生してきます。殺ダニ剤は総使用回数が少ない薬剤が多いので散布の際は注意して下さい。ウリ類やエンドウ類ではうどん粉病が発病しやすくなります。

今月種まきできるもの

ウリ類、エダマメ、オクラ、スイートコーン、ゴボウなどが播種できます。